薬王菩薩本事品第二十三

（薬王菩薩が成し遂げられた事績と能力についての章－第二十三）

爾の時に、宿王華菩薩、仏に白して言さく、世尊、薬王菩薩は、云何がしてか娑婆世界に遊ぶ。世尊是の薬王菩薩、若干百千万億那由佗の難行苦行有らん。善い哉世尊、願わくは少し解説したまえ。諸の天、龍、神、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅迦、人非人等、又他の国土より諸の来れる菩薩、及び此の声聞衆、聞いて皆歓喜せん。

爾の時に仏、宿王華菩薩に告げたまわく、乃往過去、無量恒河沙劫に仏有しき。日月浄明徳如来、応供、正遍知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけたてまつる。（335 頁 1 行～335 頁 8 行）

その時に宿王華（星の世界の王によって開花された大いなる力を持った）菩薩は、仏に向かって言いました。「世尊、薬王（薬の王）菩薩は、どのような理由で娑婆世界で遊行されているのでしょうか？世尊、この薬王菩薩は、百千万億那由他の多くの難行苦行を成し遂げられたようです。世尊、それは素晴らしいことです。お願いですから少し解き明かして頂けないでしょうか。諸々の天人・龍神・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽・人間や人間でない者たち、また、他の国土から来られた諸々の菩薩、およびここにいる声聞の方々も、皆、聞いて歓喜されるでしょう。」

その時に仏は、宿王華菩薩にお告げになりました。「計り知れないほど過去の、ガンジス河の砂の数に等しい劫の昔に、仏が居られました。日月浄明徳（太陽と月の穢れのない光のような素晴らしい影響力を持つ）　如来（悟りの世界から教えを説く者）・応供（尊敬されるに相応しい方）・正遍知（あらゆる制約を超えた普遍的な智慧を持つお方）・明行足（智慧と行いの両方が完全に成就できているお方）・善逝（迷いの世界から悟りの世界へと見事に到達した者）・世間解（世の中の事を良く理解する智慧を持つ者）・無上士（この上なく優れた人）・調御丈夫（どのような救いを求める人であっても上手く悟りの世界へと導くことができる優れた調教師）・天人師（神々も人々をも教え導く導師）・仏（悟った人）・世尊（世に尊ばれる人）と呼ばれていました。

其の仏に八十億の大菩薩摩訶薩、七十二恒河沙の大声聞衆有り。仏の寿は四万二千劫、菩薩の寿命も亦等し。彼の国には、女人、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅等、及以諸難有ること無し。地の平かなること掌の如くにして、瑠璃の所成なり。宝樹荘厳し、宝帳上に覆い、宝の華旛を垂れ、宝瓶、香炉国界に周?せり。七宝を台と為して、一樹に一台あり。其の樹、台を去ること一箭道を尽くせり。此の諸の宝樹に、皆菩薩、声聞有って、其の下に坐せり。諸の宝台の上に、各百億の諸天有って、天の伎楽を作し、仏を歌歎して、以って供養を為す。（335 頁 8 行～336 頁 5 行）

その仏には、八十億の悟りを求める志の高い偉大な菩薩達と、ガンジス河七十二本分の砂の数の偉大な声聞の方々が居られました。仏の寿命は、四万二千劫で、菩薩の寿命も同様で

した。彼の国には女性は居ませんでした。そして、地獄や餓鬼や畜生、阿修羅などの困難な境遇にある者も居ませんでした。大地は手のひらのように平らかで、ラピスラズリで出来ていました。宝の樹で厳かに飾られ、宝石がちりばめられたカーテンで覆われ、宝石の華で飾られた飾り布が垂れ、宝石で出来た瓶や香炉が国中の普くいたるところに満ちていました。七宝で出来た台が、一本ずつ宝の樹の元にありました。

その樹は、台の根元から矢を射って届く程の高さにありました。それらの宝樹の下には、菩薩達や声聞達が座っていました。そして、それらの宝台の各々には百億の天人達がいて、天の音楽を奏で、仏の賛歌を歌い、その恩に感謝し報いる行いをしていました。

爾の時に彼の仏、一切衆生憙見菩薩、及び衆の菩薩、諸の声聞衆の為に法華経を説きたもう。是の一切衆生憙見菩薩、楽って苦行を習い、日月浄明徳仏の法の中に於いて、精進経行して、一心に仏を求むること万二千歳を満じ已って、現一切色身三昧を得。
（336 頁 5 行～336 頁 8 行）

その時に、彼の仏は、一切衆生喜見（全ての衆生が喜んで会いたがる）菩薩及び、沢山の菩薩達や多くの声聞達の為に、法華経（泥の中から華開く白い蓮華のような最も優れた巧みな教え）を説かれました。

この一切衆生喜見菩薩は自ら願って苦行を習い、日月浄明徳仏（太陽と月の穢れのない光のような素晴らしい影響力を持つ仏）の教えの中での、歩きながら精神集中する修行に専心し、一心に仏の境地を求めて一万二千年もの修行を満了しました。その結果、現一切色身三昧（相手に応じてあらゆる姿を顕わすことができる境地）に達することができたのです。

此の三昧を得已って、心大いに歓喜して、即ち念言を作さく、我現一切色身三昧を得たる、皆是れ法華経を聞くことを得る力なり。我、今当に日月浄明徳仏、及び法華経を供養すべし。

即時に是の三昧に入って、虚空の中に於いて、曼陀羅華、摩訶曼陀羅華、細抹堅黒の栴檀を雨し、虚空の中に満てて、雲の如くにして下し、又海此岸の栴檀の香を雨す。此の香の六銖は、価直娑婆世界なり。以って仏に供養す。是の供養を作し已って、三昧より起って自ら念言すらく、我神力を以って、仏を供養すと雖も、身を以って供養せんには如かじ。

即ち諸の香栴檀、薫陸、兜楼婆、畢力迦、沈水、膠香を服し、又瞻蔔、諸の華香油を飲むこと、千二百歳を満し已って、香油を身に塗り、日月浄明徳仏の前に於いて、天の宝衣を以って自ら身に纏い已って、諸の香油を潅ぎ、神通力の願を以って、自ら身を然して、光明遍く八十億恒河沙の世界を照らす。（336 頁 8 行～337 頁 7 行）

この境地に達することができて、（一切衆生喜見菩薩の）心は大いなる歓喜に満たされ、こう思いました。「私が現一切色身三昧（相手に応じてあらゆる姿を顕あわすことができる境地）に達することができたのは、皆これ、法華経を聞くことによって得た力です。私は今こそ、日月浄明徳仏および法華経に対して、その恩に感謝し報いる行いをすべきです。」と。

そして、すぐにその境地に入り、虚空から天上に咲く白い花、曼荼羅華と大曼荼羅華と細かく粉末にした（香木）黒栴檀を雨のように降らして、空中を満たし、それらは雲のように

下りてきました。更にこの世界の最南端産の栴壇の香も雨のように降らしました。
　この香の六銖（4.6 グラム）の価値は娑婆世界全体に等しい程のものです。これを以って仏の恩に感謝し報いる行いをしたのでした。それをなし終って、その（現一切色身三昧の）境地から立ち上って、自らこう思いました。「私が、大いなる力でいくら仏の恩に感謝し報いる行いをしたとしても、身をもってするには及ばないだろう。」
　そこで、様々な香木、栴檀（せんだん）、薫陸（くんろく）、兜楼婆（とろば）、畢力迦（ひつりきか）、沈水（じんすい）、膠香（きょうこう）などを飲み、また、瞻蔔（せんふく）などの様々な華から採った香油を千二百年の間飲み続けました。
　その後に、香油を身体に塗り、日月浄明徳仏の前に於いて、天の宝衣を自ら身にまとい、様々な香油を注ぎ、大いなる力の願力によって自分自身を燈明として燃やし、その光は、普く八十億のガンジス河の砂の数に等しい世界を遍く照らしたのでした。

　其の中の諸仏、同時に讃めて言わく、善い哉善い哉善男子、是れ真の精進なり。是れを真の法をもつて如来を供養すと名づく。若し華香、瓔珞、焼香、抹香、塗香、天繒、旛蓋、及び海此岸栴檀の香、是の如き等の種種の諸物を以って供養すとも、及ぶこと能わざる所なり。仮使国城妻子をもって布施すとも、亦及ばざる所なり。
　善男子、是れを第一の施と名づく。諸の施の中に於いて、最尊最上なり。法を以って諸の如来を供養するが故に。
　是の語を作し已りて、各黙然したもう。其の身の火、然ゆること千二百歳、是れを過ぎて已後、其の身乃ち尽きぬ。（337 頁 7 行～338 頁 2 行）

　それらの（照らし出された世界の）中の仏達は、同時に次のように讃めて言いました。「素晴らしいことだ、素晴らしいことだ、志の高い者よ、これが真の精進である。これこそが如来の恩に感謝し報いる真に正しいやり方であると言える。もしも、華・香・珠玉を連ねた首飾りや腕輪・焼香・抹香・塗香・網の天蓋・幟旗と笠、および、この世界の最南端産の栴壇の香など、これらの様々なものによって、恩に感謝し報いたとしても、及ぶ処ではない。例え、国の領土や城や妻子を提供したとしても及ぶ処ではない。
　志高き者よ、これこそが第一の布施であると言える。様々な布施の中でも最も尊く、最上の布施である。真実をもって諸々の如来の恩に感謝し報いる行いをするからである。」と。
　この言葉を言い終ると、各々（の仏達）は、口をつぐまれました。（一切衆生喜見菩薩の）その身は千二百年の間燃え続けたのち、燃え尽きました。

　一切衆生憙見菩薩、是の如き法の供養を作し已って、命終の後に、復日月浄明徳仏の国の中に生じて、浄徳王の家に於いて、結跏趺坐して忽然に化生し、則ち其の父の為に、而も偈を説いて言さく、大王今当に知るべし　我彼の処に経行して　即時に一切　現諸身三昧を得大精進を勤行して　所愛の身を捨てにき
　是の偈を説き已りて、父に白して言さく、日月浄明徳仏、今故現に在す。我先に仏を供養し已って、解一切衆生語言陀羅尼を得、復、是の法華経の八百千万億那由佗甄迦羅、頻婆羅、阿閦婆等の偈を聞けり。（338 頁 2 行～338 頁 10 行）

一切衆生喜見菩薩は、この真実によって恩に感謝し報いる行いをなし終えて命が尽きた後に、また、日月浄明徳仏の国の中に生まれました。浄徳王の家に、結跏趺坐（両足を組んだ座り方）で、忽然として生まれたのです。そして、その父のために次のように詩をもって説いて言いました。

「大王様。よくお聞きください。私はあの場所で歩きながら精神集中する修行に専心し、すぐに現一切色身三昧（相手に応じてあらゆる姿を顕あわすことができる境地）に達することができ、更に大いなる修行を成し遂げるために、自らの愛おしい身体を捨てたのです。」

この詩を説き終って、(一切衆生喜見菩薩は)父に向かって言いました。「日月浄明徳仏は、今もなお、この世にいらっしゃいます。私は、過去において仏の恩に感謝し報いるための行いをし終えた結果、解一切衆生語言陀羅尼（あらゆる生きとし生けるものの言葉を理解し記憶する能力）を得ました。また、この法華経の八百千万億×那由他（ナユタ＝千億）×甄迦羅（ケンガラ＝10^{112}）×頻婆羅（ビンバラ＝10^{56}）×阿閦婆（アシュクバ＝10^{224}）の数の詩を聞いたのです。

大王、我、今当に還って此の仏を供養すべしと。
白し已って、即ち七宝の台に坐し、虚空に上昇こと高さ七多羅樹にして、仏所に往到し、頭面に足を礼し、十の指爪を合わせて、偈を以って仏を讃めたてまつる。
容顔甚だ奇妙にして　光明十方を照らしたもう　我適曾供養し　今復還って親近したてまつる　爾の時に一切衆生憙見菩薩、是の偈を説き已って、仏に白して言さく、世尊、世尊猶故世に在す。(338 頁 10 行～339 頁 5 行)

大王様、私は今まさに還って、この仏の恩に感謝し報いる行いをしようと思います。」と。そう言い終わってすぐに、七宝の台に坐り、空中にターラ樹の七倍の高さ（１０５ｍ）にまで昇り、仏の所に至って、仏の御足を額に頂いて礼拝し、十本の指を合わせて合掌し、詩によって仏を讃えました。

「ご尊顔は稀に見る程でその光り輝くご様子は十方を照らしています。私はかつてご恩に感謝し報いる行いをさせて頂きましたが、今またお側に還って参りました。」その時に一切衆生喜見菩薩は、この詩を説き終わって、仏に言いました。「世尊よ、世尊は今も猶、この世界にいらっしゃいます」と。

爾の時に日月浄明徳仏、一切衆生憙見菩薩に告げたまわく、善男子、我涅槃の時到り、滅尽の時至りぬ。汝牀座を安施すべし。我今夜に於いて、当に般涅槃すべし。
又一切衆生憙見菩薩に勅したまわく、善男子、我仏法を以って汝に嘱累す。及び諸の菩薩大弟子、並びに阿耨多羅三藐三菩提の法、亦三千大千の七宝の世界、諸の宝樹、宝台、及び給侍の諸天を以って、悉く汝に付す。我が滅度の後の所有の舎利、亦汝に付嘱す。当に流布せしめ、広く供養を設くべし。応に若干千の塔を起つべし。
是の如く日月浄明徳仏、一切衆生憙見菩薩に敕し已って、夜の後分に於いて涅槃に入りたまいぬ。(339 頁 5 行～339 頁 12 行)

その時に、日月浄明徳仏は、一切衆生喜見菩薩にお告げになりました。「志高き者よ。私が涅槃に入る時が来ました。入滅の時が来たのです。貴方は（私が横たわる為の）寝台を用意してください。私は当に今夜、完全なる涅槃に入るでしょう」と。

そして、一切衆生喜見菩薩に命じられました。「志高き者よ。私の教えを説き広めるよう貴方に託します。そして多くの菩薩達、大弟子達、並びに阿耨多羅三藐三菩提（仏に成るための限りなく最高の悟り）へ至る方法、この世にある全ての七宝（金、銀、瑠璃：ラピスラズリー、玻璃：水晶、しゃこ貝、珊瑚、瑪瑙：メノウ）からなる世界、そこにある多くの宝樹や宝台、および　そこに仕える多くの天人達、それら全てを貴方に託します。私が完全なる涅槃に入ってこの世を去った後には、残された私の遺骨もまた貴方に委ねます。それらを広く流布して多くの人々に（仏の）恩に感謝し報いる行いをできるようにしてあげて下さい。そしてその為に数千もの塔を建てて下さい」と。

このように日月浄明徳仏は、一切衆生喜見菩薩に命じ終えて、その夜の夜明け前に涅槃に入られたのでした。

爾の時に一切衆生憙見菩薩、仏の滅度を見て悲感懊悩して、仏を恋慕したてまつり、即ち海此岸の栴檀を以って漬と為して、仏身を供養して、以って之を焼きたてまつる。火滅えて已後、舎利を収取し、八万四千の宝瓶を作って、以って八万四千の塔を起つること、三世界より高く、表刹荘厳して、諸の旛蓋を垂れ、衆の宝鈴を懸けたり。

（339 頁 12 行～340 頁 5 行）

その時に、一切衆生喜見菩薩は、仏が入滅されたのを見て、悲しみ悩み、仏を恋慕しました。そして、この世界の南端で採れた栴檀を積木として、そこに仏身をお供えして、これを焼き奉りました。火が消えた後に、遺骨を収集し、八万四千の宝瓶を作って、それを以って八万四千の塔を建てました。高さは三世界分よりも高く、仏塔の頂上にある尖柱は厳かに飾られ、多くの飾り旗と飾り笠が垂らされ、多くの宝の鈴が懸けられました。。

爾の時に一切衆生憙見菩薩、復自ら念言すらく、我是の供養を作すと雖も、心猶未だ足らず、我今当に更舎利を供養すべし。便ち諸の菩薩、大弟子、及び天、龍、夜叉等の一切の大衆に語らく、汝等当に一心に念ずべし。我今、日月浄明徳仏の舎利を供養せん。

（340 頁 5 行～340 頁 8 行）

その時に、一切衆生喜見菩薩は、また自ら思いました。「私はこのように恩に感謝し報いる行いをしたけれど、これでは未だ足らない。私は今当に更なる恩に感謝し報いる行いをご遺骨に対してするべきだ」と。そして、多くの菩薩達、大弟子達及び・天人・龍・夜叉等の全ての大衆に対してこう言いました。

「皆さん、当に心を一つにして、決意しましょう。私はこれから、日月浄明徳仏の遺骨に対して恩に感謝し報いる行いをします」と。

是の語を作し已って、即ち八万四千の塔の前に於いて、百福荘厳の臂を然すこと七万二千歳にして、以って供養す。無数の声聞を求むる衆、無量阿僧祇の人をして、阿耨多羅三藐三菩提の心を発さしめ、皆、現一切色身三昧に住することを得せしむ。

爾の時に諸の菩薩、天、人、阿修羅等、其の臂無きを見て、憂悩悲哀して是の言を作さく、此の一切衆生憙見菩薩は、是れ我等が師、我を教化したもう者なり。而るに今、臂を焼いて身具足したまわず。

時に一切衆生憙見菩薩、大衆の中に於いて、此の誓言を立つ、我両の臂を捨てて、必ず当に仏の金色の身を得べし。若し実にして虚しからずんば、我が両の臂をして還復すること、故の如くならしめん。

是の誓を作し已って、自然に還復しぬ。斯の菩薩の、福徳智慧の淳厚なるに由って致す所なり。爾の時に当たって、三千大千世界六種に震動し、天より宝華を雨して、一切の天、人、未曾有なることを得。（340 頁 8 行～341 頁 7 行）

この言葉を言い終わって、そして八万四千の塔の前に於いて、百の福相で荘厳された腕を七万二千年の間燃やし続け、そうすることで恩に感謝し報いる行いをしたのでした。こうして、無数の声聞になろうとした人々や、無量阿僧祇の数の人々に、仏になる為の限りなく最高の悟りを求める心を起こさせ、皆に、現一切色身三昧（相手に応じてあらゆる姿を顕わすことができる境地）に留まる能力を得させたのでした。

その時、多くの菩薩達や天人・人間・阿修羅達は、その（一切衆生喜見菩薩の）腕のないのを見て、憂え苦しみ悲しんで、このように言いました。「この一切衆生喜見菩薩は、私達の師であり、私（達）を教化して下さる方です。しかし、今やその腕を焼いてしまわれて、身は不具となられてしまいました。」

その時に、一切衆生喜見菩薩は、大衆の中でこの誓言を立てられました。「私は両腕を捨てて、きっと必ず仏の金色の身を得るでしょう。もしも、それが本当であり嘘偽りでないならば、私の両腕は復元して、元のようになるでしょう」と。

この誓いをなし終わると、自然に両腕は復元したのです。この菩薩（一切衆生喜見菩薩）の福徳・智慧が嘘偽りなく深いものであったからこそ、そうなったのです。その時、三千大千世界は六種に震動し、天から宝の華の雨を降らし、全ての天人や人々は、未だかつて無い思いをしたのでした。

仏、宿王華菩薩に告げたまわく、汝が意に於いて云何。一切衆生憙見菩薩は、豈異人ならんや。今の薬王菩薩是れなり。其の身を捨てて布施する所は、是の如く無量百千万億那由佗数なり。

宿王華、若し発心して、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すること有らん者は、能く手の指、乃至足の一指を然して仏塔に供養せよ。国城、妻子、及び三千大千国土の山林、河池、諸の珍宝物を以って供養せん者に勝らん。（341 頁 7 行～341 頁 12 行）

仏は、宿王華菩薩に言われました。貴方はどう思いますか？一切衆生喜見菩薩とは、他でもない、今の薬王菩薩その人なのです。その身を捨てて布施する行いは、このように無量百

千万億那由他劫もの間続けられたのです。
　宿王華よ、もしも、発心して、阿耨多羅三藐三菩提（仏に成るための限りなく最高の悟り）を得ようと願うことがある者は、よく手の指、あるいは足の一本の指でも燃やして仏塔に対して、その恩に感謝して報いる行いをしなさい。（その方が）国や城や妻子および三千大千国土の山や林、河や池、諸々の珍宝をもって恩に感謝して報いる行いをするより勝っているのです。

　若し復人有って、七宝を以って三千大千世界を満てて、仏、及び大菩薩、辟支仏、阿羅漢に供養せん。是の人の所得の功徳も、此の法華経の、乃至一四句偈を受持する、其の福の最も多きには如かじ。
　宿王華、譬えば一切の川流、江河の諸水の中に、海為れ第一なるが如く、此の法華経も亦復是の如し。諸の如来の、所説の経の中に於いて、最も為れ深大なり。
　又、土山、黒山、小鉄囲山、大鉄囲山、及び十宝山の衆山の中に、須弥山為れ第一なるが如く、此の法華経も亦復是の如し。諸経の中に於いて、最も為れ其の上なり。
　又、衆星の中に、月天子最も為れ第一なるが如く、此の法華経も亦復是の如し。千万億種の諸の経法の中に於いて、最も為れ照明なり。
　又、日天子の、能く諸の闇を除くが如く、此の経も亦復是の如し。能く一切の不善の闇を破す。
（341 頁 12 行～342 頁 10 行）

　もしも、また、ある人が、七宝によって三千大千世界を満たし、仏、及び大菩薩、辟支仏（自分だけの悟りを求める者）、阿羅漢の恩に感謝し報いる行いをしたとしよう。この人の得る良い報いは、この法華経の四句偈の一つの教えを銘記して忘れずにいることによって得られる最高の幸せには及ばないのです。
　宿王華よ、例えば全ての川や小川や大河や大きめの河などいろんな水の中でも海こそが最大であるように、この法華経も、またこのようなのです。多くの如来の説かれた経の中に於いても、最もそれは奥深く広大なのです。
　また、土山・黒山・小鉄囲山・大鉄囲山や十宝山などの多数の山の中でも、須弥山が第一であるように、この法華経も、またこれと同じなのです。いろいろなお経の中でも、それは最上なのです。
　また多くの星の中で月が、最もこれ第一であるように、この法華経もまた、これと同じなのです。千万億種の様々な経や教えの中に於いても、最もこれが明るく照らすのです。
　また太陽がよく諸々の闇を除くように、この経もまた、これと同じなのです。よく一切の不善の闇を破壊するのです。

　又、諸の小王の中に、転輪聖王最も為れ第一なるが如く、此の経も亦復是の如し。衆経の中に於いて、最も為れ其の尊なり。
　又、帝釈の、三十三天の中に於いて王なるが如く、此の経も亦復是の如し。諸経の中の王なり。

又、大梵天王の、一切衆生の父なるが如く、此の経も亦復是の如し。一切の賢聖、学無学、及び菩薩の心を発す者の父なり。

又、一切の凡夫人の中に、須陀☑、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支仏、為れ第一なるが如く、此の経も亦復是の如し。一切の如来の所説、若しは菩薩の所説、若しは声聞の所説、諸の経法の中に最も為れ第一なり。能く是の経典を受持すること有らん者も、亦復是の如し。一切衆生の中に於いて、亦為れ第一なり。

一切の声聞、辟支仏の中に、菩薩為れ第一なり、此の経も亦復是の如し。一切の諸の経法の中に於いて、最も為れ第一なり。

仏は為れ諸法の王なるが如く此の経も亦復是の如し。諸経の中の王なり。

(342 頁 10 行～343 頁 9 行)

また、諸々の小王の中で転輪聖王が、最もこれ第一であるように、この経もまた、これと同じなのです。多くの経の中においても最もこれが尊いのです。

また、帝釈天が、忉利天の中において王であるように、この経もまた、これと同じなのです。諸々の経の中の王なのです。

また、大梵天王が、一切の生命のあるものすべての父であるように、この経もまた、これと同じなのです。一切の賢者・聖者・学ぶべき事が残っている者・学ぶべき事がなくなった者・および菩薩の心を起こす者の父なのです。

また、あらゆる凡人の中では、須陀洹（煩悩を滅する生き方を始めた者)、斯陀含（もう一度天界に生れ再び人間界に戻って煩悩を滅する道を歩む者)、阿那含（もはや人間界にもどることなく天界以上の階位に上って煩悩を滅する道を歩む者)、阿羅漢（煩悩を滅した境地に達した者、辟支仏（自分だけ悟りの境地に至る者）が第一であるように、この経もまた、これと同じなのです。あらゆる如来の教え、若しくは菩薩の教え、若しくは声聞など、様々な経典の中でも、この法華経こそが第一なのです。この法華経の教えを銘記して自分のものとする者は、あらゆる生きとし生けるものの中でも第一なのです。

あらゆる声聞（煩悩を滅する道を目指す者)、辟支仏（自分だけの悟りを求める者）の中では菩薩（あらゆる生きとし生けるものの悟りを求める者）が第一であるように、あらゆる経典の中でもこの経が第一なのです。

仏が、あらゆる教えの中でも王であるように、この経もそのようなのです。様々な経典の中の王なのです。

宿王華、此の経は能く一切衆生を救いたもう者なり。此の経は能く一切衆生をして諸の、苦悩を離れしめたもう。

此の経は能く、大いに一切衆生を饒益して、其の願を充満せしめたもう。

清涼の池の、能く一切の諸の渇乏の者に満つるが如く、寒き者の火を得たるが如く、裸なる者の衣を得たるが如く、商人の主を得たるが如く、子の母を得たるが如く、渡に船を得たるが如く、病に医を得たるが如く、暗に燈を得たるが如く、貧しきに宝を得たるが如く、民の王を得たるが如く、賈客の海を得たるが如く、炬の暗を除くが如く、此の法華経も亦復是の如し。

能く衆生をして、一切の苦、一切の病痛を離れ、能く一切の生死の縛を解かしめたもう。若し人、此の法華経を聞くことを得て、若しは自らも書き、若しは人をして書かしめん。所得の功徳、仏の智慧を以って多少を籌量すとも、其の辺を得じ。（343 頁 9 行～344 頁 7 行）

宿王華よ、この経はあらゆる生きとし生けるものを救うことが出来るものなのです。この経は、あらゆる生きとし生けるものが、苦しみから離れることを可能にするのです。

この経は、あらゆる生きとし生けるものを大いに豊かにし、その思いを遂げること可能にするのです。

清涼な池が全ての喉が渇いた者達を十分に満足させるように、寒い者が火を得るように、裸の者が衣服を得るように、商人が主を得るように、子が母を得るように、渡りに船を得るように、病人が医者を得るように、暗闇に灯りを得るように、貧しさの中で宝を得るように、人々が王を得るように、旅の商人が海を見つけるように、燈火が闇を除くように、この法華経もまた、これと同じなのです。

生きとし生けるものが、全ての苦しみや全ての病による苦痛を離れることを可能にし、自らを束縛し、迷いの世界に埋没させるものから、解放することを可能にするのです。

もしも、人がこの法華経を聞く機会を得て、自分でも書写し、人にも書写するように促すことが出来れば、それによって得られる現在や未来の利益とそれがもたらす結果の大きさは、仏の智慧をもってしても推し量ることが出来ないほどなのです。

若し是の経巻を書いて、華香、瓔珞、焼香、抹香、塗香、旛蓋、衣服、種種の燈、蘇燈、油燈、諸の香油燈、瞻蔔油燈、須曼那油燈、波羅羅油燈、婆利師迦油燈、那婆摩利油燈をもって供養せん。所得の功徳亦復無量ならん。

宿王華、若し人有って、是の薬王菩薩本事品を聞かん者は、亦無量無辺の功徳を得ん。

若し女人有って、是の薬王菩薩本事品を聞いて、能く受持せん者は、是の女身を尽して、後に復受けじ。

若し如来の滅後、後の五百歳の中に、若し女人有って、是の経典を聞いて、説の如く修行せば、此に於いて命終して、即ち安楽世界の、阿弥陀仏の大菩薩衆の囲繞せる住処に往いて、蓮華の中の宝座の上に生ぜん。復貪欲に悩されじ。亦復瞋恚、愚癡に悩されじ。亦復驕慢、嫉妬、諸垢に悩されじ。菩薩の神通無生法忍を得ん。是の忍を得已って、眼根清浄ならん。是の清浄の眼根を以って、七百万二千億那由佗恒河沙等の諸仏如来を見たてまつらん。

（344 頁 7 行～345 頁 7 行）

もしも、この経巻を書写して、華・香・珠玉を連ねた首飾りや腕輪・焼香・抹香・塗香・飾り旗と飾り笠・衣服・種々の燈火・バターの灯明・油燈・様々な香油燈・チャンパカ油燈・スマナス油燈・バータラ油燈・ヴァールシカ油燈・ナヴァマーリカー油燈をもって供養するとしたら、それによって得られる現在や未来の利益とそれがもたらす結果の大きさは、またまた無量でしょう。

宿王華よ、もしも、ある人がこの薬王菩薩本事品を聞くならば、それによって得られる現在や未来の利益とそれがもたらす結果は無量無辺でしょう。

もし女性が、この薬王菩薩本事品を聞いて、よく教えを銘記して自分のものとするならば、その人は女性としての生を全うした後は、また女性として生まれることは無いでしょう。
如来が世を去って五百年後の世の中に、もし、女性が、この経典を聞いて説かれた通りに修行したならば、その生での寿命を終えて後は、安楽世界で阿弥陀仏が多くの偉大なる菩薩達の一緒に居られる所に、蓮の華の中の宝座の上に生まれ変わることができるでしょう。
もはや、貪欲に悩まされることも無く、また、憎しみや迷いに悩まされることも無いでしょう。また、おごり高ぶって人をあなどることや、嫉妬や、様々な汚らしい思いに悩まされることも無いでしょう。そして、菩薩としての大いなる力を得、生じることも滅することもない悟りの世界を認識することが出来るでしょう。この認識を得ることが出来ると、ものを見る働きが清められ、その清められた目によって、七百万二千億那由他のガンジス河の砂の数に等しい諸仏を見ることが出来るでしょう。

是の時に諸仏、遥かに共に讃めて言わく、善い哉善い哉、善男子、汝能く釈迦牟尼仏の法の中に於いて、是の経を受持し、読誦し、思惟し、他人の為に説けり。所得の福徳無量無辺なり。火も焼くこと能わず、水も漂すこと能わじ。汝が功徳は、千仏共に説きたもうとも尽さしむること能わじ。
汝今已に能く諸の魔賊を破し、生死の軍を壊し、諸余の怨敵皆悉く摧滅せり。善男子、百千の諸仏、神通力を以って、共に汝を守護したもう。一切世間の天人の中に於いて、汝に如く者無し。唯如来を除いて其の諸の声聞、辟支仏、乃至菩薩の智慧、禅定も、汝と等しき者有ること無けん。（345 頁 7 行～346 頁 2 行）

この時に諸仏は、遥かに共に讃えて言いました。「素晴らしい。素晴らしい。志高き者よ。貴方はよく、釈迦牟尼仏の教えの中で、この経の教えを銘記して自分のものとし、声に出して読みながら暗記し、心を集中して深く考え、他の人の為に説きました。その結果としてれ得られた幸福と良い結果は計り知れない程多く、火によって焼くこともできず、水によって漂い流すことできません。貴方が得た現在や未来の利益とそれがもたらす結果の大きさは、千人の仏が共に説いても説き尽くすことが出来ない程のものです。
貴方は、今既に、よく諸々の悟りの妨げとなるものを打ち破り、迷いの世界に埋没させる力を破壊し、様々なその他の怨みや敵意を皆ことごとく打ち挫いて滅ぼしたのです。
志高き者よ、百千の諸仏が大いなる力によって、共に貴方を守護してくださっているのです。この世のあらゆる天人や人間の中で、貴方と同じような者などいないのです。唯一、如来を除いては、その他のいかなる声聞（煩悩を滅する道を歩む者）も、辟支仏（自分だけの悟りの道を歩む者）も、菩薩（全ての衆生の悟りを求める道を歩む者）も、その智慧や心の集中力において、貴方と等しい者などいないのです。

宿王華、此の菩薩は、是の如き功徳智慧の力を成就せり。若し人有って、是の薬王菩薩本事品を聞いて、能く随喜して善しと讃ぜば、是の人現世に、口の中より常に青蓮華の香を出し、身の毛孔の中より、常に牛頭栴檀の香を出さん。所得の功徳上に説く所の如し。
是の故に宿王華、此の薬王菩薩本事品を以って汝に嘱累す。我が滅度の後、後の五百歳の

中に、閻浮提に広宣流布して、断絶して、悪魔、魔民、諸天、龍、夜叉、鳩槃荼等に、其の便を得せしむること無かれ。
　宿王華、汝当に神通の力を以って、是の経を守護すべし。所以は何ん。此の経は則ち為れ閻浮提の人の病の良薬なり。
　若し人病有らんに、是の経を聞くことを得ば、病則ち消滅して不老不死ならん。
宿王華、汝若し是の経を受持すること有らん者を見ては、応に青蓮華を以って抹香を盛満てて、其の上に供散すべし。散じ已ってこの念言を作すべし。
　此の人久しからずして、必ず当に、草を取って道場に坐して、諸の魔軍を破すべし。当に法の螺を吹き、大法の鼓を撃って、一切衆生の老病死の海を度脱すべし。
（346 頁 2 行～347 頁 3 行）

　宿王華よ。この菩薩は、この様に、現在や未来の利益とそれがもたらす結果と、智慧の力を成就したのです。もしも、ある人が、この薬王菩薩本事品を聞いて、心からありがたく思い、素晴らしいと讃嘆したならば、この人は現世において、口の中から常に青蓮華の香りが漂い、身体の毛穴からは常に南インドの牛頭山に産する栴檀の香りが漂うでしょう。その人が得る現在や未来の利益とそれがもたらす結果は、上に説いた通りでしょう。
　この故に宿王華よ、この薬王菩薩本事品を広宣流布するよう貴方に託します。私が世を去ったのち、後の五百年の中で、この世界に広くこの教えを行きわたらせ、それが断絶してしまって、悪魔・魔民・諸天・龍・夜叉・鳩槃荼：クハンダ（人の精気を吸う鬼神）らに、つけ入る隙を与えないようにして下さい。
　宿王華よ、貴方は当に大いなる力を以て、この経を守護するべきです。何故かというと、この経はすなわち、この世界の人にとっての病の良薬のようなものだからです。
　もしも、病んでいる人（迷いの世界で苦しんでいる人）が、この経を聞く事ができたならば、その病（迷い）はすぐに消滅して不老不死となるでしょう。（生老病死を超えた悟りの世界へ到達できるでしょう。）
　この人は遠からずして、必ず間違いなく、草を敷いて道場に坐り、様々な悟りを妨げるものを打ち破るでしょう。そして、教えを広く説き広め、迷いを打ち破る教えによって、あらゆる生きとし生けるものを老・病・死の迷いの海を渡らせ、そこから脱出させるでしょう。

　是の故に、仏道を求めん者、是の経典を受持すること有らん人を見ては、応当に、是の如く恭敬の心を生ずべし。
　是の薬王菩薩本事品を説きたもう時、八万四千の菩薩、解一切衆生語言陀羅尼を得たり。
　多宝如来宝塔の中に於いて、宿王華菩薩を讃めて言わく、善い哉善い哉、宿王華、汝不可思議の功徳を成就して、乃ち能く釈迦牟尼仏に、此の如きの事を問いたてまつりて、無量の一切衆生を利益す。（347 頁 3 行～347 頁 8 行）

　この理由のために仏道を求める者が、この経典の教えを銘記して自分のものにする者を見たときには、必ずやこのように恭しく敬う心を生ずるべきなのです。
　この薬王菩薩本事品が説かれたとき、八万四千の菩薩は、解一切衆生語言陀羅尼（あらゆ

る生きとし生けるものの言葉を理解し記憶する能力）得たのです。

多宝如来は宝塔の中において、宿王華菩薩を讃嘆して言われました。「素晴らしい。素晴らしい。宿王華よ。貴方は思い測ることも言葉で言い表すことも出来ない程の現在や未来の利益とそれがもたらす結果を成就して、今、巧みに釈迦牟尼仏、このような事をお伺いして、限りない数のあらゆる生きとし生けるものに利益をもたらしたのです。